

## 課題解決のための検討の方向性

# 気候変動を踏まえた土砂災害対策を検討する上での行政課題

○ 「近年の土砂災害実績を踏まえた課題」、「近年の土砂・洪水氾濫の顕在化を踏まえた課題」を踏まえ、今後の気候変動を踏まえた土砂災害への適応策を推進するためには、

1. どのような土砂移動現象が今後頻発化もしくは新たに顕在化する恐れがあるのかを社会全体として認識できるようにすること
2. 計画論上・設計論上の外力(降水量・生産土砂量)がどの程度増加するのかを推定する手法を構築することが重要ではないか。

## 1. 頻発化・顕在化する恐れのある土砂移動現象の例

土砂・洪水氾濫



谷地形が不明瞭な箇所での土石流



明瞭な地すべり地形を呈さない箇所での地すべり  
(崩壊性地すべり)



同時多発的な表層崩壊や土石流

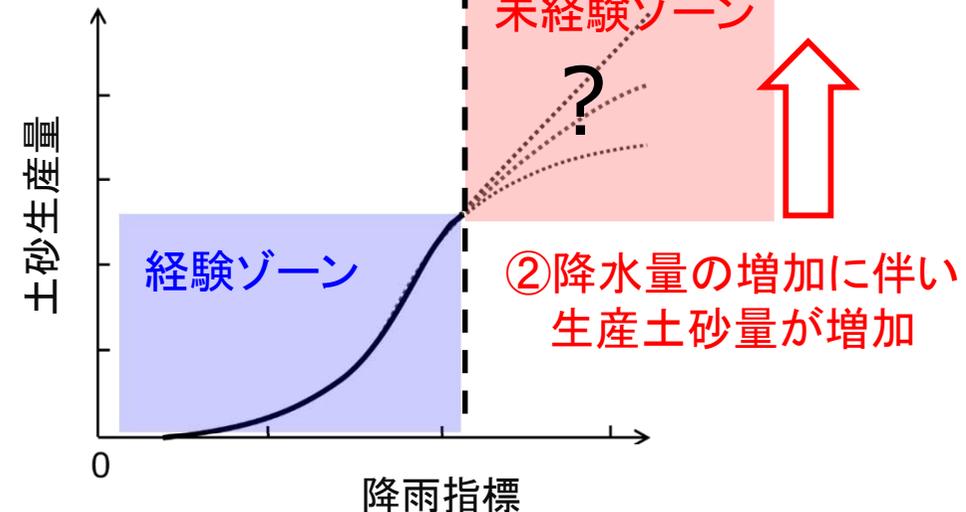
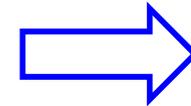


深層崩壊・天然ダム



## 2. 降水量・生産土砂量の増加のイメージ

①気候変動により降水量が増加



### <1. どのような土砂移動現象が今後頻発化もしくは新たに顕在化する恐れがあるのかを社会全体として認識できるようにすること>

- 今後どのような土砂移動現象がどのような地域・箇所でも頻発化もしくは新たに顕在化する恐れがあるのか、即ち「現象の変化の解明」については、広域的、地域的の両方の視点より検討を進めるべきではないか。
- 広域的な視点での検討としては、まずは気候変動に伴う地域毎の降雨特性の変化に応じて今後より一層頻発化もしくは新たに顕在化する恐れのある土砂移動現象を推定するとともに、その発生リスクの変化傾向を大まかな地域毎に評価する手法の構築を行い、全国各地域における気候変動による土砂災害リスクが今後どのように変化を把握できるようにすべきではないか。
- 地域的な視点での検討としては、具体的なハード・ソフト対策における適応策を講ずる観点から、特に気候変動に伴う降雨特性の変化によって顕在化しつつある、土砂・洪水氾濫のほか、谷地形が不明瞭な箇所での土石流や、明瞭な地すべり地形を呈さない箇所での地すべりのような、現在土砂災害防止法で指定基準、ハザードの広がりを特定する手法が定められていない土砂移動現象が発生する蓋然性の高い箇所の抽出手法の構築を急ぐべきではないか。

### <2. 計画論上・設計論上の外力(降水量・生産土砂量)がどの程度増加するのかを推定する手法を構築すること>

- 降水量の増加に応じてどう生産土砂量が変わるのか、即ち降水量に対する生産土砂量の応答特性を評価する手法の構築を目指すべきではないか。